

幸田小学校で実施

防犯の体験

「BO-KENあいち」で 身を守る方法を学ぼう！



教えて！コノハ警部！
新しい防犯の学び！



えこたん

「BO-KENあいち」ってなあに？

コノハ警部

「BO-KENあいち」とは、子どもを対象とした体験型の防犯教室のことだよ。防犯の「防（ぼう）」、体験の「験（けん）」を組み合わせた名称になっているんだよ。

愛知県警では、学校に不審者の侵入を想定した「不審者対応訓練」だけでなく、登下校時に不審者に出会ったときの逃げ方や、防犯ホイッスルが素早く吹けるか、どのくらいの音量で助けを呼べばいいかといったことを児童に体を使いながら学んでもらう取り組みを始めたんだ！

えこたん

そういう経緯で始まったんだね。ちなみに、令和3年中に町内で発生した児童への不審者被害は何件あったの？

コノハ警部

5件も発生したんだ。「抱きつかれる」「無断でスマホなどで撮影される」などの被害があったんだよ。

えこたん

大人が近くにいれば防げていたかもしれないね。

コノハ警部

そうだね。そういった事件を少しでも減らすために活動してくれているボランティアの人たちはとてもありがたい存在だよな。

役場や警察署で配布している「こども110番の家」も助けを求めるときの重要な目印として、とても助かっているよ。



えこたん

ただ、いざそういった場面に出くわしたときに「大人に助けを呼ぶ」「逃げる」と頭では分かっているけど、すぐに行動ができるかと言われると、難しいんだよな。

頭で理解しているだけでなく、体でも覚える「BO-KENあいち」の体験は重要なんだね！

コノハ警部

そうなんだよ。子どもたちが危険な場面に遭ったとき、ちゃんと身を守る行動がとれるように、今回は幸田小学校の2年生を対象に「BO-KENあいち」を実施したんだ。体験ブースは3種類！各体験の目的や、児童の様子も併せて、紹介するね。

体験

20メートル走って逃げる

不審者の約75パーセントは児童が20メートル逃げると諦める傾向であるということが分かっています。しかし、登下校中は、ランドセルを背負っているの、普段運動しているような身軽な状態ではありません。

そこで、ランドセルを背負った状態で20メートルを走ってもらい、どれぐらいのスピードで逃げられるか、20メートルとはどれぐらいの距離か体感してもらいました。

【感想】ランドセルを背負っていると、走りにくかった。



防犯ホイッスルを素早く吹く

今回体験した児童は、全員きちんと防犯ホイッスルを用意していましたが、防犯ホイッスルは、素早く吹けてこそ意味がある防犯グッズです。はたして、児童はきちんと吹ける位置に身につけているでしょうか？

この体験では、職員が襲い掛かるふりをした瞬間に、普段身につけている位置で素早く吹いて逃げられるかを体験してもらいました。

【感想】普段身につけている位置だと、防犯ホイッスルは吹きづらいことが分かった。

大声で助けを呼ぶ

登下校中に限らず、休日や放課後に歩くときに防犯ホイッスルがない場合は、自分の声で助けを呼ばなくてはなりません。一般的な防犯ブザーの音量が90デシベルといわれていますが、負けないぐらいの音を出せるでしょうか？

この体験では、騒音計を用いて児童の声の音量を測定し、適正な音量で助けを呼ぶことができるか計測しました。一番大きい声が出せたグループは113デシベルでこれは車のクラクションの音に相当します。

【感想】ほかの子に負けないぐらい、大きな声を出すことができた。



町では、青色パトロール車両による見守り活動や、防犯教室の実施、防犯設備の充実などに力を入れていますが、犯罪そのものを減らすためには、町民一人一人が「地域に目を向ける」「あいさつを習慣づける」などの地域コミュニティの活性化が重要です。

地域づくりの一環として、できることから、ご協力をお願いします。

よろしくおねがいします！



従来の防犯教室は、寸劇や講話が一般的でしたが、「BO・KENあいち」は話を聞くことに加え、不審者からの逃げ方などを実際に体験することによって危機回避能力、自己防衛能力を向上させることができるのがいいところです。

1人でも多くの子どもたちに体験してもらい、万が一に備えて「大声を出すこと」「防犯ブザーなどを鳴らすこと」「逃げることをしっかりと覚えてほしい」と思います。



岡崎警察署 生活安全課から